



NHO Nishigunma Hospital

ウイズ

— No.66 —

平成24年5月(2012年)

編集 独立行政法人 西群馬病院
発行 国立病院機構

電話 0279-23-3030

FAX 0279-23-2740

E-mail: nishigun@nng.hosp.go.jp

http://www.hosp.go.jp/~wgunma



新病院へスタート

いよいよ、平成27年度開院を目指して、2月21日に華々しく調印式が行われました。

独立行政法人
国立病院機構

西群馬病院の基本理念

患者さまと共に考える医療

1. 専門性の高い良質な医療を推進します
2. 十分な情報を提供し、生活の質 (QOL) を尊重します
3. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します
4. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児(者)の専門病院として、社会に貢献します
5. 地域医療支援病院として、地域医療に貢献します
6. 健全な経営と適正な運営に努めます

目次

- * 院内学会で最優秀賞を受賞して 1
- * 退職者あいさつ 4
- * 研修会報告 5
- * 平成23年度院内教育委員会報告 7

シリーズ

- * 診療科紹介 10
- * 健康シリーズ 11
- * 重症心身障害児(者)病棟だより 12
- * 医療安全管理室だより 13
- * 栄養管理室だより 14
- * ボランティアだより 15
- * ICT部会だより 16
- * 地域医療連携室だより (地域医療機関の紹介) 17
- * がん相談支援センターのお知らせ 18
- * 診療方針・看護の理念 19

院内学会最優秀賞を受賞して

契約係 鈴木 亘

今回、西群馬病院院内学会にて、特定保健医療材料の償還について発表させていただきました。特定保健医療材料とは、「医療材料の支給に要する平均的な費用の額が、診療報酬とは別に定められる」医療材料で、使用した材料に対して費用を請求（償還）することができるものです。病院の健全な経営を実現・維持するためには、使用した特定保険医療材料について、漏れなく算定をする必要があります。そんな特定保険医療材料の、西群馬病院における現状と対策について発表させて頂きました。

多くの特定保険医療材料には、発注・納品はSPD業者、会計処理は企画課、使用は現場、算定は医事課といった具合に、多くの部署や人が関わっています。ですが院内に導入されているシステムでは、これらを横断的に調べることはできないため、使用した材料を漏れなく算定できているかチェックしづらい状況にあります。このような状況の中で算定漏れを防ぐには、算定漏れを発見することができるように適宜チェックを行うと共に、各部署間の連絡を密にして漏れを未然に防止する必要があります。

今回の発表に際しては、関係各所からの協力を得ることができ、また発表後には「医療材料の償還に注意してみるよ」といった声を頂き、院内での連携・協力が密に行われていることを実感できました。それが、調べた限りでは明らかな算定漏れはない、という結果につながっているのだと思います。このような状態・結果を継続していけるよう、これからも協力をお願いしたいと思います。

学生時代の学会発表と勝手が違い、また新採用1年目で何も分からない私に、様々な指導・助言・協力をして頂いた方々おかげで、今回最優秀賞をいただくことができました。これに感謝しつつ、また皆様の力をお借りしながら、これからも頑張っていきたいと思っています。



院内学会優秀賞を受賞して

医療安全管理係長 櫻井 益代(現、信州上田医療センター)

平成23年度院内学会において「内服与薬に関するヒヤリ・ハット発生 of 看護師要因」をテーマに発表いたしました。このたびは、優秀賞という立派な賞をいただきとても嬉しく思います。ありがとうございました。

今回の発表は、国立病院機構関東信越ブロック医療安全管理係長の新潟・群馬・栃木のグループで研究している内容をもとに発表いたしました。私ども国立病院機構の施設に勤務する医療安全管理係長は、ブロックごとに委員会を設けております。県単位または、いくつかのグループに分かれ研究を行っております。普段はメール等で情報交換や研究の課題を行い、定期的集まりを持ち研究をまとめます。病院としての機能はそれぞれ異なりますが、経営母体を同じくするため医療安全管理係長としての悩みを相談し理解しあえる、頼りになる仲間です。

さて今回の研究です。どこの施設でも、ヒヤリ・ハット報告で、転倒転落事例の次に多い報告は、内服与薬のエラーです。与薬業務は看護業務に占める割合が大きく複雑・多様な業務です。そのプロセスには複数の看護師が関わっているため、与薬業務に対する責任が分散されます。また与薬業務は、看護師だけでなく医師・薬剤師が携わっており、患者に投与されるまでの経路が複雑です。ヒヤリ・ハットが発生すると、事例を分析したり、各種マニュアルを整備したりします。苦勞の割には同様事例が繰り返され、一向に事例が減少しません。そんな状況の中、安全な内服与薬の援助をめざすという目的。内服与薬に関するヒヤリ・ハットの発生の看護師要因を明らかにするという目標を立て研究を始めました。結論として看護師要因は、1、作業中断が多く注意力が散漫になりやすい環境 2、エラーの原因になる知識不足とミスの怖さの認識不足 3、看護師のチェック機能の脆弱さ 4、行動モニターできない現状 4つの要因が上がりました。この聞きなれない行動モニターとは、人間の行動を「意図」「計画」「実行」「結果」の4段階でとらえ、人間は常に自分自身をモニターし、修正を加えながら行動しているという考え方です。この年度の研究はここまででしたが、翌年度には「行動モニター」について、4つの段階のどの段階でエラーが発生しているのか。行動モニターが働き修正されれば正しい結果が得られるのか。どのようにしたら行動モニターが働くのか。という点で研究を進めました。臨床の場に反映できるような結果が解明しつつあります。また何かの機会にお話しすることができたら幸いです。



院内学会優秀賞を受賞して

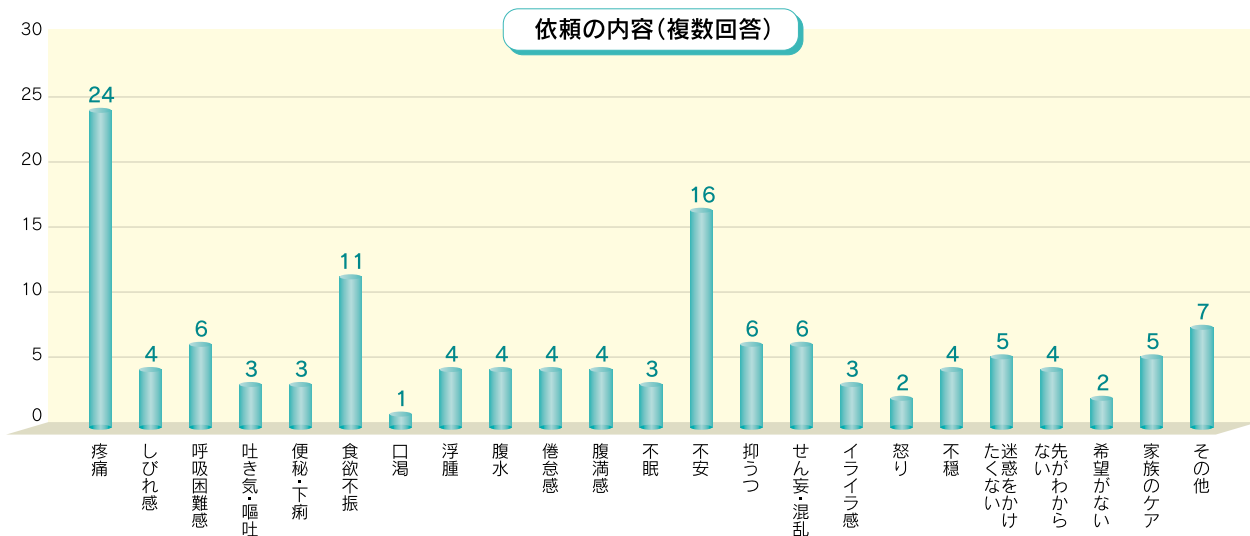
精神腫瘍科医長 間島 竹彦

このたび、先の院内学会にて「緩和ケアチームを立ち上げて」という演題で発表いたしましたところ、優秀賞を受賞することができました。演題の内容は、2011年7月から精神科医が専従の緩和ケアチームを立ち上げたので、チームの活動を概観したものです。以下、その要旨を記します。

緩和ケアチームで依頼を受けた新規患者は、2011年7月～10月の4ヶ月間で延べ 45名(男性：22名、女性：23名、平均年齢：67.4歳)でした。診察を行った件数は7月90件、8月166件、9月215件、10月227件と、増加の傾向にありました。依頼内容としては、疼痛コントロールについての依頼が24件、次いで「不安」が多く(16件)、不眠や抑うつ、せん妄や不穏などを加えた、いわゆる「メンタルサポート」のニーズは、身体的な問題と同じ程度にあると考えられました。依頼された患者の転帰は、4割強が死亡、退院が3割、緩和ケア病棟転棟が約2割であり、緩和ケアチームが「終末期ケア」としての役割と「緩和ケア病棟へのつなぎ」としての役割を果たしていると考えられました。

当院の緩和ケアチームは、精神科医が専従であることから、患者さんやご家族の心理的なサポートと、抑うつや不安などの気持ちのつらさや、せん妄に対する適切な診断・評価と対処が可能であることが特徴であると考えられます。また、病院に緩和ケア病棟を有していることから、緩和ケアチームが緩和ケア病棟へ入棟するまでの間の「つなぎ」としての役割を担えると考えられます。また、専従の看護師ががん患者カウンセリング料を算定する際に同席する機会が多いため、がん患者カウンセリングを行った後も緩和ケアチームで関与することにより、いわゆる早期から、切れ目のない緩和ケアを提供することが可能になると考えられました。

緩和ケアチームの活動はあくまでも脇役的ですが、今後も主治医・病棟スタッフと、患者さん・ご家族双方のお役に立ちたいと思います。



～退職者あいさつ～

定年退職のご挨拶

車庫長 板倉 敏雄

平成24年3月31日をもちまして、定年退職いたします。

昭和55年1月16日に国立療養所大日向荘に採用になり洗濯場に入り、重心洗濯での仕事は重心の子供たちの、おむつや衣類を洗い仕上げをしてかえす。

中央洗濯での仕事は、白衣やシーツを洗い、アイロンとプレスで仕上げてかえす仕事です。そんなおり運転手が退職するのでとゆう話があり、25年2ヶ月15日洗濯場でお世話になり平成16年4月から運転手としての仕事はおもに看護学校の実習で長野県や県内高崎や前橋に送迎しました。

重心の子供たちの戸外活動や歯科や耳鼻科や

眼科送迎する仕事です。

それから、23年3月11日の東北大地震で福島県いわき病院まで重心の子供を迎えに行き東埼玉病院経由で病院に帰りました。運転手として努めてまいりましたが、今思えば昨日の事のように思い出されます。

これからは長い西群馬病院での楽しかった思い出を胸に頑張っていきたいと思っています。

長い間本当にお世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。

最後に西群馬病院の益々の発展と職員皆様のご健康とご多幸を祈りしつつお別れの挨拶と致します。

歳時記

子どもの健やかな成長を祈って ～石段ひなまつり in 伊香保温泉～

管理課長 若林 信久(現、多磨全生園)

平成3年3月3日午後3時33分に、節句の祝いであるこのひなまつりが開催され、今回で22回を数えることとなった今年の「石段ひなまつり」は、3月3・4日の土・日に地元の幼稚園の園児22名をひな人形に見立て華やかに開催されました。今回は前座で地元和太鼓グループの演舞が行われ、その後晴れやかで、少し緊張したお内裏様、お雛様を始め各役になりきった愛らしく、凛々しい園児の顔が揃いました。伊香保の階段も立派に役をこなす園児の親御さん、観光客、一般観客で多いににぎわい通行もままならないほど、上州の山里の温泉にもようやく春の気配を感じられる一日となりました。



和太鼓グループによる演舞



少し緊張したかわいい雛人形

研 修 会 報 告

●第76回摂食・指導(基礎・実習)研修会に参加して●

11病棟看護師 青池 かほり

私は心身障害児総合医療療育センターで行われた摂食基礎研修に参加しました。1日目は嚥下の正常な機能や障害、摂食訓練についての講義がありました。正しい機能を知った上で、障害されるとどうなるのか、そのためにどのような訓練が必要なのか詳しく知ることができました。2日目は実際に食事時のポジショニングや介助方法を実習で学びました。患者役と介助役になり、両者を体験することができました。この病棟にきたばかりで、まだ摂食訓練を患者さんに行っていないので、どのような力加減で行うのか、食べるテンポ・タイミングや自分の

立ち位置など、ほとんど初めて学習することばかりでした。特に口唇介助が難しく、力の入れ方や手の置く位置、観察の仕方など細やかな技術が必要とされ、やる意味をしっかりと理解していないと正しい介助はできないと感じました。摂食訓練では、口唇介助が必要不可欠であるため、きちんと練習をして実際の訓練を実施できるようにしていきたいと思います。

今回の研修に参加して、必要な知識と技術を学ぶことができ、とてもよい経験になりました。さらに研鑽を積み実際の看護に生かしていきたいと思います。

11病棟看護師 猪熊 慶子

平成23年12月に2日間にわたって研修に参加しました。受講者は全国の重症児・肢体不自由者施設、通園施設、養護学校、一般病院、国立病院機構からの理学療法士や作業療法士、保育士、介護福祉士、看護師と多職種が参加していました。

講義内容は摂食機能の発達とその障害、摂食指導・訓練、誤嚥の病態と対応、実習では介助方法が中心の摂食実習を学びました。その中でも印象的だったのは実際に食べ物や飲み物を介助用のスプーンを使用しての実技体験でした。介助する側、介助される側の体験をし介助時にどのような声かけが必要か、介助で食べ物を口へ入れるときの注意点など介助される側になってみることで食べやすさ食べにくさを知ることができ、患者さんが普段どのように感じているのか知るきっかけになりました。

今後は私も病棟で摂食訓練を実施していくこととなりますので、今回の研修で学んだことを活かし、患者さんの摂食機能の維持・向上と安全で楽しく1日3回の食事を摂取できるよう努めていきたいと思います。

ご案内

第10回 市民公開セミナー 開催について

入場
無料

日時 平成24年6月17日(日)

場所 アネーリ渋谷 渋谷市金井1298

(予定)

斎藤院長による第10回記念の特別講演会
オペラ歌手によるコンサート

●全国国立病院事務長会関信地区支部主催係長研修に参加して●

経理係長 吉井 伸行

平成23年11月17日（木）～18日（金）に行われた係長研修に参加してまいりました。初日は斎藤院長、横浜医療センター山口看護部長から「事務職の係長に望むもの」、その後、東京慈恵医科大学附属病院で渉外室顧問を務める横内氏から「院内暴力・クレーム対応について」の講演がありました。

どれも普段なかなか聞けない貴重な話であり、今後業務を行うにあたってとても参考になりました。スペースの都合上掲載出来ないのが残念です。

翌日は「職場におけるコミュニケーションの在り方」という討議テーマが示され、受講者が5班に分かれてそれぞれ司会や発表者、資料作成等の役割を決めて午前中に検討・まとめを行い、午後はグループごとに発表を行いました。似たような内容になるかなと内心思っていたが、各班とも予想以上に様々な内容でコミュ

ニケーションの方法や意義、経験談などが発表され、発表後も多くの質疑が飛び交いとても充実した内容でした。

コミュニケーションの方法は時と場合に応じ様々ですが、こと職場のコミュニケーションに限って言えば、「相手の立場を理解し、自分の立場を理解してもらい、信頼関係を作ることが大事」という言葉がとても印象に残りました。一方通行でなく、相手が伝えたいことを理解し、自分の伝えたいことを確実に伝える。とても難しいことですが、少しでも理想に近づけるよう今後も努力していきたいと思えます。



●平成23年度短期看護研修「感染管理認定看護師のための高度実践研修」を受講して●

感染管理認定看護師 倉澤 幸

平成24年1月16～17日に国立看護大学校にて、感染管理認定看護師のための高度実践研修に参加しました。チーム医療における感染管理領域において、高度実践の可能性を考えることを目的として国立病院機構病院などから64名が参加しました。

研修内容は講義とグループワークでした。講義では高度実践の可能性として、医療倫理、効率性評価、サーベイランスの実際、感染症アセスメント、最新の薬剤耐性菌について受講しました。討議では「活動の実際と将来展望（課題）」をテーマとしたパネルディスカッションとグル

ープワークを実施しました。討議の中で、高度実践をしていく為にはチーム医療が大切だという意見がまとまりました。その為には組織横断的な活動が重要であり、感染管理認定看護師には調整役としてのスキルも必要です。また、根拠に基づいた活動実践の為には常に最新知識を習得しながら自己研鑽を積み、院内外での良好な人間関係を構築する事が大切であると実感しました。

今回の研修で学んだ事を今後の活動に生かしていけるように努力していきます。

平成23年度院内教育委員会報告

統括診療部長(院内教育委員会委員長)
渡邊 寛



平成16年1月に院内教育委員会が発足し、それ以降職員の自己研鑽の場として「院内教育講演会」を開催していますが、今年度は23回の講演会が開催されました。各々の講演題目、講師や発表者、参加人数を表1に示します。平成20年度より「医療安全」や「院内感染」などの講演会に、院内だけでなく近隣の医療機関の医療従事者にも広く参加のご案内をさせていただいており、今年度も4回の講演で計24名の院外からの参加者がありました。院外からの参加者を含めると今年度の延べ参加人数は1,386名であり、1回あたりの平均参加人数は60.3名でした。参加者の内訳を表2に示しますが、今年度は医療安全推進の目的で、医療安全の講演には職員全員が少なくとも年1回は参加するように促した結果、産休、育休、病休などの休職者を除く常勤職員283名全員の参加があり、過去最高の参加率でした。しかし、表3に参加回数を示しますが、7回以上参加できた職員は全体の25.4%であり、特に夜勤などある看護職員においては例年とほぼ同様に平均2、3回の参加に止まりました。

今年度の内容は、診療部の講演会が6回あり、CPC(Clinico-Pathological Conference)も行われました。医療安全、感染対策、NST・褥瘡、化学療法などの講演会も例年通り行われ、接遇に関する講演では「ホテルのホスピタリティについて」と題し

てホテルマンに講演をして頂き、好評を得ました。人工呼吸器説明会、輸液ポンプ・シリンジポンプの説明、輸液の基礎知識や、震災の影響から災害発生時や停電時の対応を視野に入れた医療ガスの安全な取り扱いについてなど、新たな企画もありました。また院内学会も行われ、医療安全・経営改善などをテーマとして各部門より計9演題の発表があり、多くの職員が参加しました。例年通り、講演会に積極的に出席された職員または演者や発表などで貢献された職員に対し、委員会で審査して年度末表彰者を決定しました。3月30日に表彰式が行われ表4に示すように各部門から選出された7名の方々に表彰状が授与されました。

今後も全職員に自己研鑽の場を提供し、病院全体の医療の質の向上を図るべく機会を多く持ち、院外の医療従事者の方にも多数参加していただけるように、24年度も新企画を用意していきたいと考えております。また、過去に行った企画で再開を希望される場合や新しい企画に関してご意見・ご要望・お問い合わせがあれば委員会まで遠慮なく申し出ていただきたいと思います。

平成23年度院内教育講演会

表1.講演内容

*印は院外講師

() は参加数のうち、院外者数

回数	部門	日時	講師・発表者	演題	参加数
第1回	導入案内	H23.4.21	富士通エフサス*	電子カルテ導入検討に向けて	74名
第2回	医療安全	H23.5.26	岡野 孝雄 伊部 崇史	ドレーン・チューブ類の管理について 胸腔ドレーン、中心静脈カテーテル及び消化管チューブ類の挿入から挿入中の管理	85名
第3回	診療部	H23.6.2	大塚 敏之 蒔田富士雄	当院のC型慢性肝炎患者の現況 肝臓の最新治療	48名
第4回	化学療法	H23.6.8	樋口 順一 細川 舞	タキサン系薬剤について 血管外漏出について	38名
第5回	医療安全	H23.6.16	蒔田富士雄 櫻井 益代	平成22年度のヒヤリハット・有害事象のまとめ 当院における医療安全管理体制 各部署の特徴と主な事例について	102名 (8)
第6回	N S T	H23.6.22	山川 治*	口腔ケアと摂食・嚥下障害の基礎知識	50名
第7回	診療部	H23.6.29	氏田万寿夫 松浦 正名	CT検査におけるヨード造影剤のABC 放射線被曝と放射線治療	49名
第8回	診療部	H23.7.7	横田 徹 小林 光伸	現在の乳癌治療について 大腸癌の診療	62名
第9回	診療部	H23.7.13	澤村 守夫 松本 守生 馬渡 桃子	血液疾患とその周辺 多発性骨髄腫の治療・最近の話題 HIV感染症について	43名
第10回	診療部	H23.7.14	川島 修 富澤 由雄	胸腔鏡手術について 肺癌の診断と内科治療	51名
第11回	感染対策	H23.7.21	土屋 尚子 倉澤 幸	食中毒を防ぎましょう！ 感染管理のススメ	76名
第12回	接 遇	H23.7.28	佐藤 進*	ホテルのホスピタリティについて	90名(3)
第13回	診療部	H23.9.21	根岸 明秀*	がん患者に対する口腔ケア	47名(7)
第14回	医療安全	H23.9.29	フクダ電子*	人工呼吸器勉強会 1. 人工呼吸器の使用について(サボ300とサボi) 2. サボiの事故事例について	43名
第15回	感染対策	H23.11.1	鶴田春一郎 倉澤 幸	抗菌薬の適正使用 -血液培養のススメ-	70名
第16回	医療安全	H23.11.24	テルモ(株)*	輸液ポンプ・シリンジポンプの適正使用と電気系統の管理	96名(6)
第17回	褥 瘡	H23.11.29	永井 弥生*	褥瘡治療のエッセンス	31名
第18回	医療安全	H23.11.30	櫻井 益代	23年度前期有害事象症例の検討 コメンテーター 副院長・外科系診療部長 臨床研究部長・医療安全管理係長	41名
第19回	院内学会	H23.12.1	森山 裕 野村 知彦 櫻井 益代 鈴木 亘 星野まち子 松本裕美子 間島 竹彦 八塩 知美 工藤 愛	テーマ 医療安全・経営改善・その他 再発がんによる食道狭窄に対して開腹胃瘻を増設してNSTで栄養管理を行った2例 CRCによる臨床試験の業務支援とその効果について 内服投与に関するヒヤリ・ハット発生の看護師要因 特定保険医療材料と保険の請求について 抗がん剤治療を安全確実に実施するためのとりくみ 肺癌症例における病理検査の現状 緩和ケアチームを立ち上げて 緩和ケアについての情報提供を受けた患者の意思決定プロセス決定に関する研究 患者を「さん」と呼ぶことの看護師の意識変化	94名
第20回	医療安全	H24.1.12	山田 博喜*	医療ガスの安全な取扱い	58名
第21回	医療安全	H24.3.1	真中 章弘	輸液の基礎知識	40名
第22回	医療安全	H24.3.15	蒔田富士雄 櫻井 益代	ヒヤリ・ハット有害事象の共有 共有すべき全国の医療事故事例 平成23年度患者影響レベル3b以上事例の検討	63名 (8)
第23回	診療部	H24.3.21	吉井 明弘 氏田万寿夫 岩科 雅範	臨床病理カンファレンス(C P C)特発性間質性肺炎の剖検症例 主治医 放射線画像診断医 病理	32名

表2 参加者内訳

常勤職員	定員	参加数	延参加数
事務職	15	15	103
福祉職	8	8	17
技能職	17	17	41
介助職	4	4	4
医師	28	28	207
看護師長	14	14	184
看護師A	9	9	63
看護師B	158	158	397
コ・メディカル	30	30	330
小計	283	283	1,346

※休職者を除く途中転出入者も含む

非常勤職員	—	5	8
派遣・委託	—	3	3
院外参加者	—	27	29
総計	—	318	1,386



表3 常勤職員参加回数

参加回数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回	16回	17回	18回	19回	20回	21~23回
事務職			1	2	1	1	1	2	1	1	2			1			1					
福祉職		5	2	1				1														
技能職		3	7	3	1	1	1															
介助職		4																				
医師		4	2	3	4	1		1	3	2	3				1	2	1					1
看護師長					4			1		1		1	2		2	1	2	2				1
看護師A※		1		1	2			1	1			1	1	1								
看護師B※		48	43	33	15	9	3	1	2	2												
コメディカル					1	1	2	3	2	4	1	5	1	3		2	1	2		1		1
計	0	65	55	43	28	13	7	10	9	10	6	7	4	5	3	5	5	4	0	1	2	1

※看護師Aは定時勤務者 看護師Bは勤務交代を有する者

表4 H23年度表彰者

部門	職名	氏名	参加回数	備考
医局	外科医長	岡野 孝雄	13回	講演1回
コ・メディカル	栄養管理室長	土屋 尚子	20回	講演1回
看護師長 / 看護師A※	看護師長	阿部千鶴子	17回	
	看護師長	蜂須賀純子	17回	
看護師B※	看護師	小林 美穂	12回	
	看護師	上原あゆみ	9回	
事務職	算定病歴係	奥山 恵子	13回	

※看護師Aは、定時勤務者 看護師Bは、勤務交代を有する者



内科医長 小林 剛

がんは、日本人の死因で最も多い病気で、3人に1人ががんで亡くなっています。このように身近な病気になったがんですが、あなたの大切な方も、がんで悩んでいるかもしれません。緩和ケアとは、がんにともなって起こるさまざまなつらさを和らげるためのケアです。体のつらさ、心のつらさ、生活のつらさなど、さまざまなつらさを抱えたがん患者さんとその家族を、総合的に支える医療です。

がん診療の全経過を通して認められる“つらさ”の緩和を主眼に置く医療を緩和ケアといますが、一般的にがん末期の”終末期医療”と混同されやすい傾向にあります。あくまでも”終末期医療”は”緩和ケア”の一部で、緩和ケア自体は、早い時期から抗がん治療と併用すべき治療法です。単なる「命の終わりを見据えた医療（終末期医療）」ではなく、「病気の早い時期からがん治療と並行して行い、快適に生活するためにがんによって起きている問題や起きてくる問題に対応する医療」なのです。

この緩和ケアを専門的に行うのが緩和ケア病棟ですが、緩和ケアは一般病棟でも受けること

ができます。当院では、平成23年7月から精神腫瘍科の間島医師が中心となり、緩和ケアチームとして一般病棟で早期からの緩和ケアを実践しています。

緩和ケア病棟は、がんを治すことを主な目的とした治療（手術、抗がん剤治療、放射線治療、ホルモン療法など）が困難な患者さんや、それを希望しない患者さんが、がんによって生じるさまざまなつらさにより自宅で過ごすことが困難になったときに入院するための専門病棟で、患者さんやご家族が心穏やかに毎日を過ごせるようチームでケアにあたっています。現在、年間100名を超える多彩な原発巣のがん患者さんが入棟し、外泊や退院する患者さんも多くいます。

緩和ケア科では、平成24年4月から医師が増え2名体制となります。また、精神的支援では精神腫瘍科の間島医師に関わっていただき、緩和ケアとして充実した診療体制がとれるようになりました。今後も地域の緩和ケアの発展にこたえられるように日々努力を続けていきたいと思っております。これからも緩和ケア科をよろしくお願ひします。

がん検診を「地域がん診療連携拠点病院」で受けてみませんか。

検診の種類

★肺がん検診（ヘリカルCT、喀痰細胞検査） 費用 10,000円（消費税込み）

※肺がん検診はCT検査のみの場合7,000円（消費税込み）となります。

★消化器がん検診（胃・十二指腸ファイバー、腹部超音波検査、便潜血反応、直腸指診）費用 15,000円（消費税込み）

※ただし、オプションとして、1.肝炎検診（2,000円（消費税込み））2.糖尿病・高脂血症検診（1,000円（消費税込み））を付加できます。

ご予約・お問い合わせ

地域医療連携室 電話0279-23-3294

※群馬県内では、西群馬病院と他7病院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定

我が国に多いがん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん等）について、住民がその日常生活圏域の中で全人的な質の高いがん医療を提供できる病院

臨床研究部長 澤村 守夫

多発性骨髄腫は骨髄を主とするM蛋白を産生する多発性の形質細胞腫瘍である。起源はリンパ節胚中心で免疫グロブリン再構成を行ったあとの長期生存型の形質芽細胞と考えられる。前癌病変である「意義不明の単クローン性ガンマグロブリン血症MGUS期」を経て発症する。

多発性骨髄腫によって生じる臓器障害（CRAB、表）などを有するものが症候性骨髄腫で、治療を要する。65歳未満の初期治療には自家末梢血幹細胞移植を伴う大量化学療法が推奨される。65歳以上や、合併症などによる移植非適応患者では各種の標準治療が行われる。サリドマイド、レナリドマイド、ボルテゾミブなどの新規薬剤が臨床に導入され、各種の治療レジメンが検討されている。ただし日本では、まだすべての薬剤が初期治療に保険適応となっている訳ではない。自家末梢血幹細胞移植後や初回完解導入療法後の強化療法、維持療法も新規薬剤を加えた治療法が検討されている。初期治療抵抗性、再発再燃例に対する治療法も、新規薬剤を用いたレジメンや、他の新薬の臨床研究が行われている。

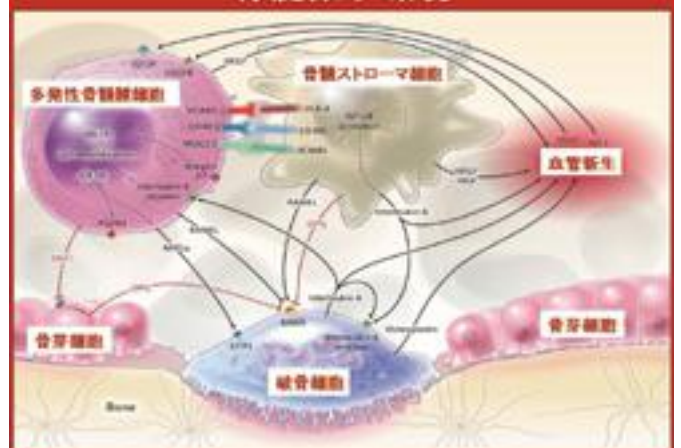
多発性骨髄腫の骨病変に対する支持療法としてゾレドロン酸が使用されている。予後を改善し、無増悪生存期間や全生存期間の延長が得られる。副作用として顎骨壊死や腎障害の問題がある。最近、抗RANKL抗体療法が保険承認され、今後の有用性が期待されている。

新規薬剤は骨髄腫細胞だけでなく骨髄微小環境（図）も標的としている。サリドマイド、レナリドマイドなどの免疫調整薬や、ボルテゾミブなどのプロテアソーム阻害剤の新しい誘導體や、他の系統の薬剤も開発され、現在、臨床研究段階のものが多数ある。移植適応例、非適応例の初期治療レジメン、強化・維持療法が一層改善されることが期待されている。全ゲノム解析により、詳細な成因、薬剤感受性、新規治療開発など、診療・治療の急速な発展がはじまっている。

多発性骨髄腫の臓器障害

高カルシウム血症	Hypercalcemia
腎不全	Renal insufficiency
貧血	Anemia
骨病変	Bone lesions
過粘稠度症候群	
アミロイドーシス	
年2回以上の細菌感染症	

骨髄微小環境



重症心身障害児(者)病棟だより



屋外訓練場 梅の花

寒さを乗り越えて… 一季節を大切に生きる喜び一

療育指導室保育士 畔上 尚子

年が明けると、インフルエンザが猛威をふるい院内感染などのニュースが次々と流れ、当院の重症心身障害病棟でも高熱を出す方が増えました。そのため、通常の療養生活ができず利用者様もベッド上で過ごすことが多くなりました。少しでもストレスがたまらないようにと試行錯誤しながらベッドサイドや各病室内での療育活動を展開。季節行事も形を変え、感染に注意を払いながらも季節を感じられる内容を工夫しました。そんな1月から3月までの行事を紹介します。

【1月】<新年会>顔は福笑いで、着物はお花紙を貼り、華やかな羽子板が完成。龍の羽子板を使った風船バレーボールでは、新年から白熱した戦いが繰り広げられました。

<成人を祝う会>新たに一名の方が成人を迎えられました。お祝いの言葉や花束、記念品の贈呈を行いました。小さな会ではありましたが、最後に参加された利用者様、保護者様、職員一人ひとりが「おめでとう」と握手をし、笑顔あり涙ありのとても心温まる感動的な会となりました。



【2月】<節分会>病棟閉鎖となり、節分会は中止になりました。病室やベッドサイドで、豆まきや恵方巻の感触遊びを通し、季節を感じながら邪気を追い払いました。

<ほっとアート展参加>新たな取り組みとして、当院の重症心身障害児・者の理解を深めていただくために、渋川地区障害者ほっとアート展に参加。利用者様80名全員で制作した題名「榛名を望む昇り龍」の貼り絵を出展しました。

【3月】<桃の花会>病棟閉鎖が続き、保護者、ボランティアの参加のない寂しい行事になりました。お雛様を間近で見たり、桜・橘に見立て香り付けした開くと丸くなる「でんぐり紙」を貼り付けました。1カ月半ぶりの行事ということもあり、利用者様もとても喜んで笑顔をたくさん見せてくれました。

*当院の屋外訓練場にある梅が、3月22日やっと開花しました。じっと寒さに耐えた白い花は心なしかいつもより輝いていました。私たちも利用者様と共に4月からの新しい年度を元気に輝いてスタートしたいと思います。



医療安全管理室だより

医療安全管理係長 星野 まち子

平成24年4月1日付をもちまして医療安全管理係長の任を命ぜられました星野です。私は7年前の4月に、ここ西群馬病院に新任の看護師長として赴任して参りました。

看護師長になりたての頃は、患者さんができるだけ気持ち良く、そして、安心して入院生活を送って頂けるような環境を作りたいという気持ちが先に立ち、時間を見つけては患者さんのベッドサイドに出向いて日常のケアや環境整備をしていました。そんなある日、管理職として活躍されている患者さんから「師長はそんな事をしていちゃだめだよ。何でも自分がやってしまっってはスタッフが成長しない」と助言を頂いた事があります。恥ずかしながら、その言葉を聞いて初めて、自分が病棟師長として何をして行かなければならないのかを自覚しました。

患者さんに安心して入院して頂く為には、専門職である看護師として必要な知識と技術を身に付ける事が基本になります。例えば、患者さんの生命に直結する注射を安全に実施する為には、まずは患者さんの病態を理解する事から始まります。そして、医師から出された指示が適切であるのかを判断した上で指示を受け、解らないことや不明確な事は確認し、薬剤についての知識を正確に持ち、清潔操作で物品を取り扱い、患者さんを取り違える事なく実施して、患者さんの状態と薬剤の効果・副作用出現の有無を確認し、安全に後片付けができる。これら一連の行為は、看護師としてできて当然の事であり、一人でも逸脱した行動をとった場合には、患者さんに安心して入院して頂く事ができなくなります。その為、「病棟看護師全員が看護師としての自覚と責任を持った上で日常のケアを実践しているかを確認し、不足していると感じた場合には、そこを補って行く事が病棟師長の役割である」と考えて6年間を過ごしてきました。

これまでは、先ずは病棟に入院されている患者さん全員と21名の看護職員全員の安全を守る事と病棟の看護の質を少しでも向上させる事が私の務めでした。しかし、これからは西群馬病院全体の安全管理に目を向けていかなければならない立場となり、大変大きなプレッシャーを感じています。前任者である櫻井医療安全管理係長の医療安全に対する取り組み姿勢を思い出しながら、医療安全管理室長である蒔田副院長との連携を良好に保ち、各部署の“医療安全推進担当者”に協力して頂きながら、少しずつ前に進んで行きたいと思えます。



栄養管理室だより



非常時に役立つ食品を準備していますか？

管理栄養室長 土屋 尚子

東日本大震災以降、非常時に備えて長期保存可能な食糧を購入する家庭が増えました
食物アレルギーや糖尿病などの治療をしている方、歯の調子が悪い方などは、症状にあわせた食品を準備しておきましょう



非常時に役立つ食品例

主食類 パック入りごはん レトルトおかゆ パンの缶詰 クラッカーなど

缶詰類

魚の缶詰（ツナ缶 鯖缶 さば水煮缶 ほたて貝柱缶 かに缶 さんま蒲焼き缶など）
肉の缶詰（ささみ缶 焼き鳥缶 牛大和煮缶 ウィンナー缶 コンビーフ缶など）
卵の缶詰（うずら卵缶など）
大豆の缶詰（大豆水煮など）
野菜の缶詰（トマト缶 コーン缶 なめこ缶 マッシュルーム缶など）
果物の缶詰（みかん 白桃 黄桃 バイン 洋梨缶 マンゴーなど）
野菜ジュース フルーツジュースなど

レトルト食品 カレー ハヤシ ミートソース 中華丼 親子丼 牛丼など

ペットボトル ミネラルウォーター 日本茶 麦茶 ウーロン茶など

その他 サランラップ 割りばし ウェットティッシュなど

糖尿病・脂質異常症の方は食品選択を工夫しましょう

- ・ツナ缶は油を使用していないノンオイルタイプのもを選びましょう
- ・魚の缶詰は、糖分が多い「味噌煮缶」や「蒲焼缶」などより「水煮缶」を購入しましょう
- ・飲み物は水や日本茶などを選択して、甘いものは避けましょう

歯の調子が悪い方にも食べやすいものが販売されています

- ・歯ぐきでつぶすことができるやわらかい煮物などがレトルト食品として多数発売されています
薬局やスーパーで購入できます

賞味期限切れを防ぐために工夫しましょう

- ・常に日常の食事で消費しやすいものが便利です
- ・毎月、日にちを決めて使用したり、風邪などの体調不良時や買い物に行くことができない時などに利用することをおすすめします
- ・缶詰は、そのまま食べても美味しいですが、卵と混ぜて焼く、チャーハンや野菜炒めに加える
サラダの上のにのせるなどにも活用できます
- ・果物の缶詰は、つぶしてパンにのせる、刻んでヨーグルトやアイスクリームに加える、細かく刻み冷凍してシャーベットとして楽しむこともできます



ボ ラン テ ィ ア だ よ り

医療福祉相談室 山田 尚子

西群馬病院では、総合案内ボランティアと病棟ボランティアを募集しております。

総合案内ボランティアは、患者さまやご家族さまの院内のご案内や玄関・待合ホールの環境整備等をお願いしております。

病棟ボランティアは、緩和ケア病棟と重症心身障害児（者）病棟で、毎月行われる行事のお手伝いや、病棟の環境整備等をしていただいております。

病棟の行事では、琴やピアノの演奏、コ

ーラス、アニマルセラピー、マジックショー等のイベントボランティアのみなさまにもご協力をいただき、本当に有り難く感謝いたしております。ボランティアさんのご協力により、多くの患者さまが喜んで下さっています。

毎月の行事また、行事以外でもご協力いただける方は、ご相談させていただきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

平成24年度年間行事予定

緩和ケア病棟		重症心身障害児(者)病棟	
4月11日(水)	春の歌・花の歌(オカリナ演奏)	4月 9日(月)	新緑会
5月 9日(水)	端午の節句(民謡)	5月18日(金)	春祭り(ウォークラリー)
6月13日(水)	あじさい祭り (NHK文化センター前橋教室有志)	6月 4日(月)	お楽しみ会(ウォークラリー)
7月11日(水)	七夕祭り(ピアノとバイオリン)	7月13日(金)	夏祭り(屋台)
8月 8日(水)	夏祭り(上州八木節)	8月 8日(水)	お楽しみ会(水遊び)
9月12日(水)	十五夜お月さん(オカリナ演奏)	9月10日(月)	実りの会
10月10日(水)	秋の収穫祭(シャンソン)	10月12日(金)	病棟祭(アニマルセラピー)
11月14日(水)	菊の香祭(抒情歌)	11月19日(月)	芸術鑑賞会(生演奏等)
12月12日(水)	クリスマス(ピアノと歌唱)	12月10日(月)	11病棟クリスマス会(寸劇)
12月26日(水)	お餅つき	12月17日(月)	12病棟クリスマス会(寸劇)

お問い合わせ先：国立病院機構 西群馬病院 医療福祉相談室まで。

☎：0279-23-3030

ICT部会 だより

感染症対策と 病院間の連携

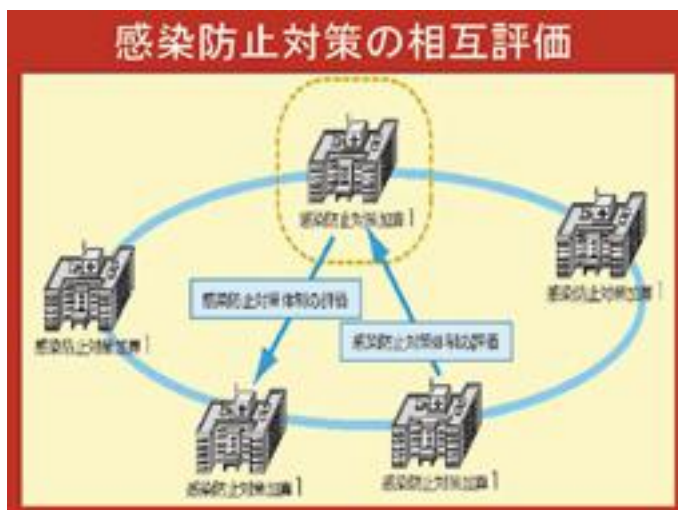
臨床研究部長 澤村 守夫

感染対策を推進するために病院間の連携をどのように実施するかは重要な課題である。平成24年度診療報酬改定により、院内感染の防止が評価体系に改めて加わり、ICT(Infection Control Team)のある病院と300床未満の病院との連携、ICTをもつ病院同士が複数連携して感染対策を行うことが評価されることとなった。具体的に何を行うかや、連携する病院をどこにするかは、現在、検討中である。病院間での講演会、研修会、カンファレンス、相互点検が必要となる。内容として、感染予防・管理システム、医療関連感染サーベイランス、感染防止技術、職業感染管理、感染管理指導・相談、洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメントなどが含まれると考えられる。

平成22年10月に多剤耐性アシネトバクターの院内感染症に関し、日本感染症学会など4学会が問題点と改善点を提言している。医療連携や、コスト面から診療報酬上の評価が必要なものとして、感染症サーベイランス、多剤耐性菌検査が実施できる環境整備、標準感染予防+接触感染対策に個室使用・使い捨て手袋・ガウン・エプロンなどのコストがかかること、専門の人材の配置と育成などが必要であることを挙げている。これらの内容の充実が、今後さらに求められている。

地域連携のモデルとして賀来満夫先生が主催する東北感染制御ネットワークの活動がある。特に東日本大震災被災地での取組みが注目に値する。「感染症啓発ポスター」を被災地の救援医療チームへ提供するなどの活動が行われ、行政や各種の医療機関などとの連携がスムーズであったことが評価されている。日頃から密接なコミュニケーションをとっていたので、非常事態において迅速な対応ができたということが強調されている。

病院間の密な連携を結ぶことで、高い水準で感染対策を行うことや、新型インフルエンザや災害などの非常事態への対応する際にも、役立つことが期待される。



地域医療連携室だより 地域医療機関の紹介

高野外科胃腸科 院長 高野 佳晃

日本大学医学部を卒業後、同大附属病院第3外科(消化器外科)に入局し、何県かに出張しました。新潟県上越市高田国立病院勤務を最後に、昭和51年5月故郷に戻り、渋川市新町(今までは市の中央となった、新町五差路すぐ北)に、高野外科胃腸科医院を開業しました。当時は、まだまだ救急医療体制が、充分で無く、苦労したことが思い出されます。渋川国立病院が、近くですので患者さんの紹介をさせて頂きました。この関係から、小さな有床診療所ではありましたが、群大附属病院第2外科医局から、毎週末当直の先生方に来て頂くことが出来ました。

私自身は、ボクシングの経験はありませんが、学生時代プロボクサーだった異色の教授に師事したのを切っ掛けに、「外傷による脳障害」についての研究を始めました。在局中は、プロのリングドクターを務めていましたが数年でアマに転向し、現在も大学生、高校生選手の健康管理を担当しています。全日本医事委員、オリンピック強化スタッフとして、安全面をサポートしています。殴り合うし、時には怪我もするが、検診、健康管理をしっかりすれば、危険なスポーツではない、その魅力を伝えられる様、体が続く限り選手を見守っていきたい。

診療所は、12年前に私が生死を彷徨った病気を機に、医師会の役職、学校医を辞し、無床診療所として頑張っています。

又、我が家は4世代9人家族で、賑やかな家庭です。これが私の元気の源とな



高野院長

っていると思います。

最後になりましたが、地域医療連携組織が充実して来たことは、個人で開業している者にとって、どんなに有難いことか感謝しています。又、近い将来、西群馬病院と渋川総合病院の合併によって、増々北毛地区の多くの住民が、安心して生活出来ることを期待しています。私も微力ではありますが、協力させて頂きますので、今後共宜しくお願いします。

高野外科胃腸科医院
〒377-0008
渋川市渋川1934-21
TEL 0279-24-2454
胃腸科、外科、肛門科、整形外科、内科

独立行政法人国立病院機構西群馬病院 がん相談支援センター

ご相談方法

- 電話相談・窓口相談は、**事前予約制**になっています。
相談予約受付は、
地域医療連携室 担当：尾方・山田・山浦(医療ソーシャルワーカー)
電話 0279-23-3294 又は0279-23-3030(代表)内線217-487-214まで
(受付時間は、平日9:00～17:00です)
- メール相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。
E-mail : nishigun@nng.hosp.go.jp

各種がん分野の相談日時

(電話・窓口相談は予約制です。相談は無料です。窓口相談はお一人30分以内でお願いします。)

	分野	相談員	電話相談				窓口相談				メール相談
			曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	
1	肺がん	斎藤 龍生	火	10:00～12:00	木	10:00～12:00	月	15:00～15:30	水	15:00～15:30	月から金
		富澤 由雄				火	13:00～14:00	金	13:00～14:00	月から金	
		川島 修				木	9:00～10:00			月から金	
2	乳がん・甲状腺がん	横田 徹	水	14:30～16:30	金	13:00～14:00	水	14:00～16:30	金	13:00～14:00	月から金
3	食道・胃・大腸がん	小林 光伸	金	13:00～14:00			金	13:00～14:00			月から金
4	肝臓・胆・膵がん	蒔田富士雄	金	10:00～12:00			木	13:00～15:00			月から金
5	血液・造血器がん	澤村 守夫	月	13:00～14:00							月・火・水
6	緩和ケア(ホスピス)	小林 剛	火	13:00～14:00			火	13:00～14:00			月から金
7	その他(1～6以外)	蒔田富士雄	金	10:00～12:00			木	13:00～15:00			月から金

*メール相談の受付時間は、9:00～17:00

セカンドオピニオン担当医表

科別	予約時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
呼吸器内科 (肺腫瘍)	午後2時～	—	富澤 由雄	—	—	—
	午後3時30分～	斎藤 龍生	—	斎藤 龍生	—	—
呼吸器外科	午前中	—	—	—	川島 修	—
血液内科	午後2時～	澤村 守夫 松本 守生	—	—	澤村 守夫 磯田 淳	—
乳腺・甲状腺科	午後2時30分～	横田 徹	—	横田 徹	—	—
消化器外科	午前中	蒔田 富士雄	—	—	蒔田 富士雄	—
放射線科	午後3時～	—	松浦 正名	—	—	—
緩和ケア科	午後	—	—	小林 剛	—	小林 剛

対象者：原則として患者さま本人、患者さまの同意を得た家族
お問い合わせ先：TEL0279-23-3294 地域医療連携室(直通) 費用：30分毎に5,250円

診療方針

- 1.がん、特に肺がん・肝がん・造血器腫瘍等を中心とした悪性腫瘍の診断治療を一層強化する
- 2.結核患者の県内拠点病院として質の高い医療を提供する
- 3.重症児（者）の療育については、各職種の連携を密にし、チーム医療の充実を図る
- 4.PCUについては、患者の満足度の更なる向上を目指して、全人的ケア（肉体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛に対するケア）を充実させる

看護の理念

患者さまの立場にたった最善の看護

- 1.患者さまの生命および人権を尊重します
- 2.安全で適正な看護に努めます
- 3.思いやりと真心をこめて看護します
- 4.患者および家族の皆様と共に考える看護に努めます
- 5.知識・技術を向上させ、専門性の高い看護を志します

患者さまの権利

- 1.最善の医療サービスを受ける権利
- 2.人格・人権を尊重される権利
- 3.知る権利
- 4.自己決定権
- 5.プライバシーを保護される権利

外来診療担当医表（平成24年4月1日～）

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医
消化器内科	5診	オオツカ トシユキ 大塚 敏之	5診	イマイズミ アツシ 今泉 淳	5診	オオツカ トシユキ 大塚 敏之	5診	ヤマザキ クンダイカンゾウ 山崎(群大肝臓)	5診	コジャ アキコ 古謝亜紀子
呼吸器内科	6診	タケイ コウスケ 武井 宏輔(AM)								
	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	イイジマ ヒロノブ 飯島 浩宣	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	トミザワ ヨシオ 富澤 由雄	7診	ヨシノ レイコ 吉野 麗子
	8診	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	8診	クワコ トモヒト 桑子 智人	8診	ツチヤ ユキコ 土屋友規子	8診	カミテ 群大(上出)	8診	ワタナベ サトル 渡邊 覚
血液一般内科	3診	マワタリ モモコ 馬渡 桃子	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫
	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	4診	サイトウ アキオ 斉藤 明生	4診	サイトウ アキオ 斉藤 明生(AM)	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	1診	エズリハ アキノリ 杠 明憲(新患のみ)
							6診	エズリハ アキノリ 杠 明憲(PM)		
消化器外科	2診	マキタ フジオ 蒔田富士雄(AM)	6診	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸			2診	マキタ フジオ 蒔田富士雄	4診	トツカ オサム 戸塚 統(AM)
呼吸器外科					6診	カワシマ オサム 川島 修(AM)	6診	カケガワ セイチ 懸川 誠一(AM)	6診	カワシマ オサム 川島 修(AM)
乳腺甲状腺			2診	ヨコタ トオル 横田 徹	2診	ヨコタ トオル 横田 徹			2診	ヨコタ トオル 横田 徹
	2診	ヨコタ トオル 横田 徹(PM)								
緩和ケア	6診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)
整形外科									6診	ワタナベ ヒデユキ 渡辺 秀臣 (第一PM入院のみ)
精神腫瘍科	外来 指導室	マジマ タケヒコ 間島 竹彦(PM)								
放射線科	放	マツウラ マサナ 松浦 正名								

新患・再来予約外 受付時間 8時30分～11時00分
※担当医が変更になる場合もございますので事前に電話でご確認下さい。

編集後記

新年度がスタートし、退職者挨拶の記事、また医師の異動により、外来診療担当医表も変更がございました。ウィズ編集委員も新たなメンバーでスタートし、今号も無事に発行できたことに感謝いたします。いつもと同じこと…心からありがとう。今日、この日だから思うだけでなく、毎日、少しの時間でいいから、そう思う時間があるといいなと思います。

(N・Y)

独立行政法人 国立病院機構西群馬病院

〒377-8511 群馬県渋川市金井2854 TEL 0279-23-3030 FAX 0279-23-2740 <http://www.hosp.go.jp/~wgunma>